

「春季大会 もう一つの輝く姿」

240511

春季大会ではみなさんの真剣な表情、必死に相手に立ち向かう姿勢など、命輝く姿をみることができました。結果としては、ソフトボール部、男子バレーボール部、女子バレーボール部、女子バスケットボール部、男子テニス部が優勝を勝ち取ることができましたが、どの部も一球、1プレイ、一射に賭ける思いの強さは変わらないと思っています。ほんの一瞬の反応(タイミング)のずれ、小さな判断の違いによって、異なった結果になっていたと思います。しかし、その小さなずれが勝敗を分ける怖さも感じたと思います。新人戦から大きく成長したみなさんです。残り1か月半でさらにたくましく、強く、チームとしての力を伸ばしていくことを期待しています。

各部の応援に回っているなか、女子バスケットボール部の試合を観戦していた時のことです。男子バスケットボール部の部員がコート沿いに並べられた椅子に座って、女子の試合の応援をしていました。女子への熱い声援を送っている黄 T シャツの男バス集団のなか、私の目に入ったのは2年生の一人だけ椅子がなく立ったまま応援している部員でした。バスケットボールの大会の規程で椅子席が決まっているのか、たまたま一人だけが立つという状況になっていました。とても不自然に感じて、全員が座って応援できればいいのにといい、周りにいた北部中の先生に椅子の予備はないのかと聞いたりして、探そうと動いたりして、一人でやきもきしていました。そんなやりとりをしていると、2年生の部員の一人が立ち上がって、その立っていた子と交代していました。思わずその声を掛けた子に「こうやって交代しているんだね。一人だけ立っているのが気になっていたけど、余計な心配だった。ありがとう。」と声を掛けました。その子個人の判断での動きだったのか、部内での決め事でやっていたことなのかはわかりませんが、いずれにせよ心配をすることはなかったのだと思いました。今思うと、大袈裟なことではなく、私の取り越し苦労だったのでしょうが、なにかほっとして、とってもあったかい気持ちになりました。仲間を大切にすること、独りにしないこと、思い遣って気遣うこと、それも輝く姿だと思います。春季大会で、**もう一つの輝く姿**を見せてもらった気がしました。